

文部科学省 大学入学者選抜改革推進委託事業（個別大学の入学者選抜等におけるCBTの活用）  
事業成果報告シンポジウム

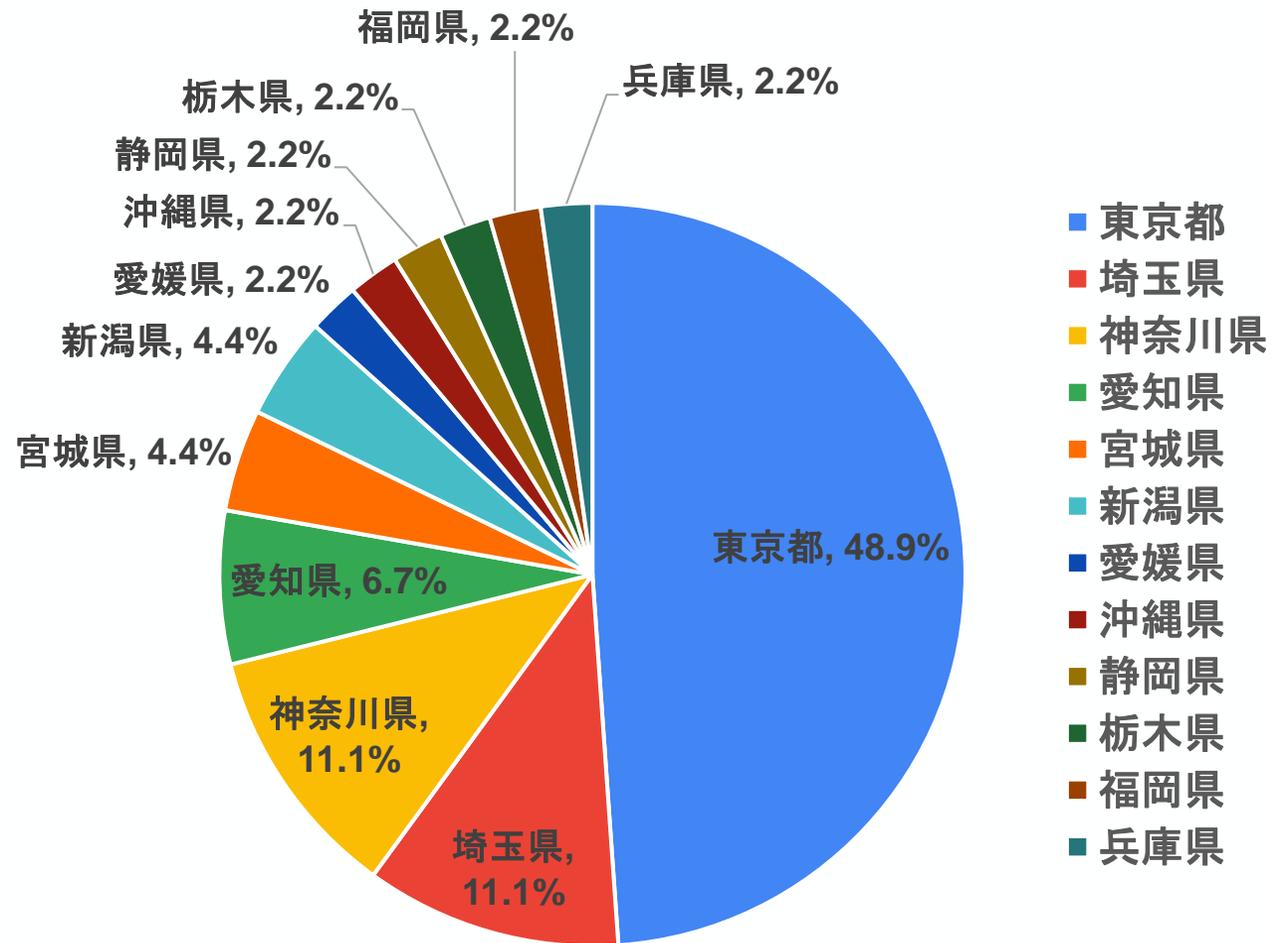
## 教科「情報」を含むアイテムバンク式CBTによる大学入試の試み

2024年12月7日（土）電気通信大学

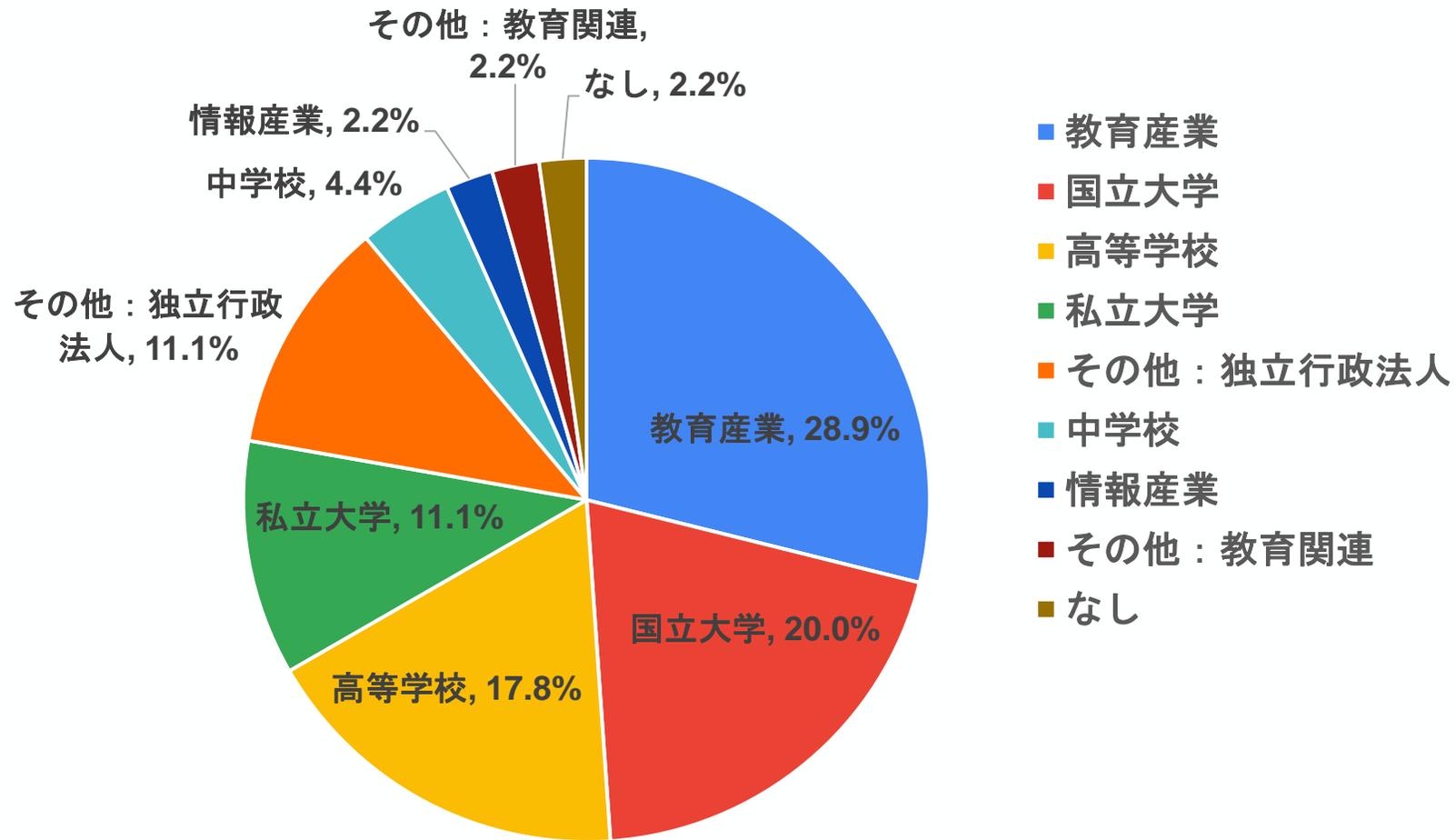
# アンケート結果



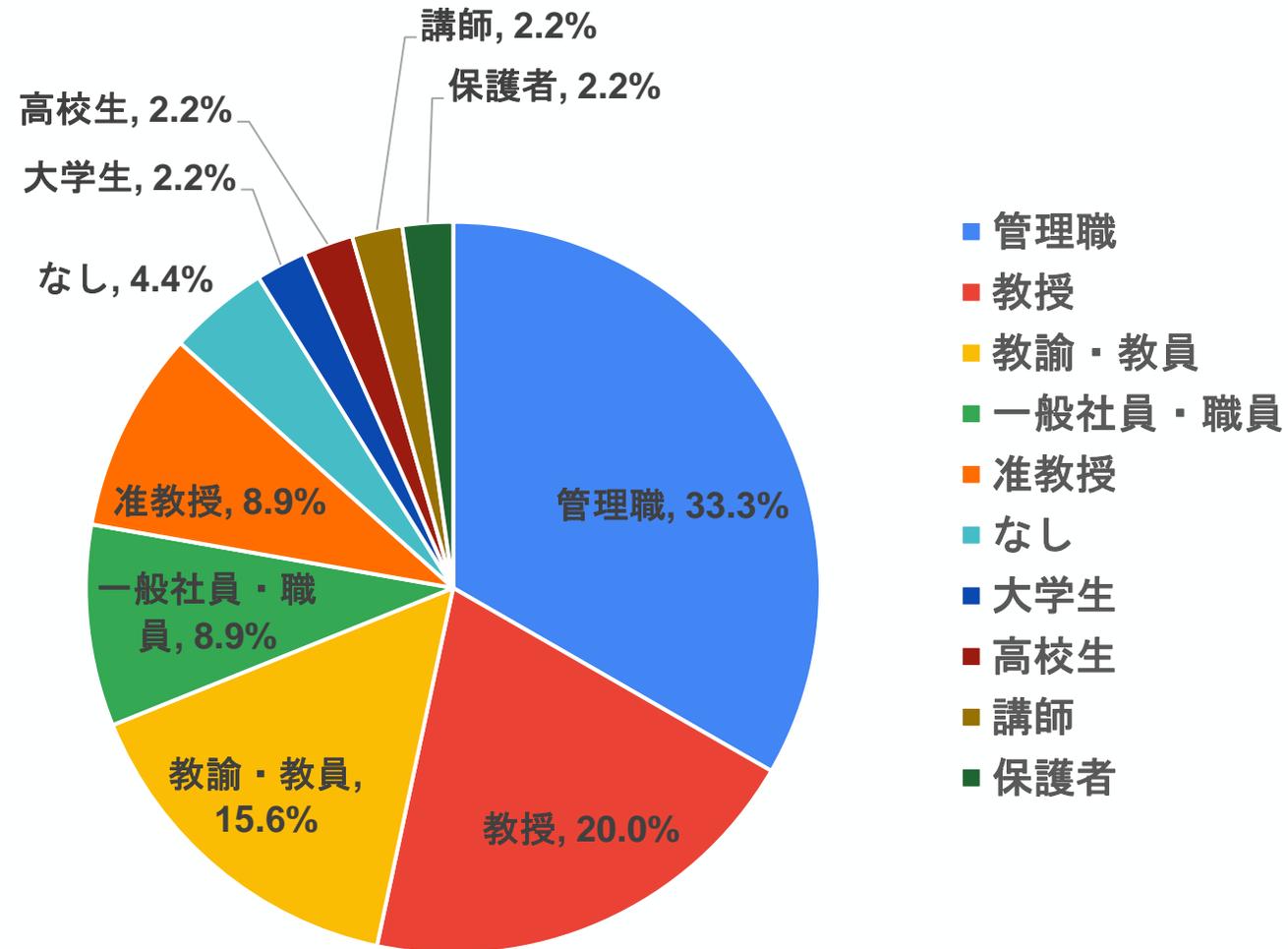
# 1. 回答者の居住地



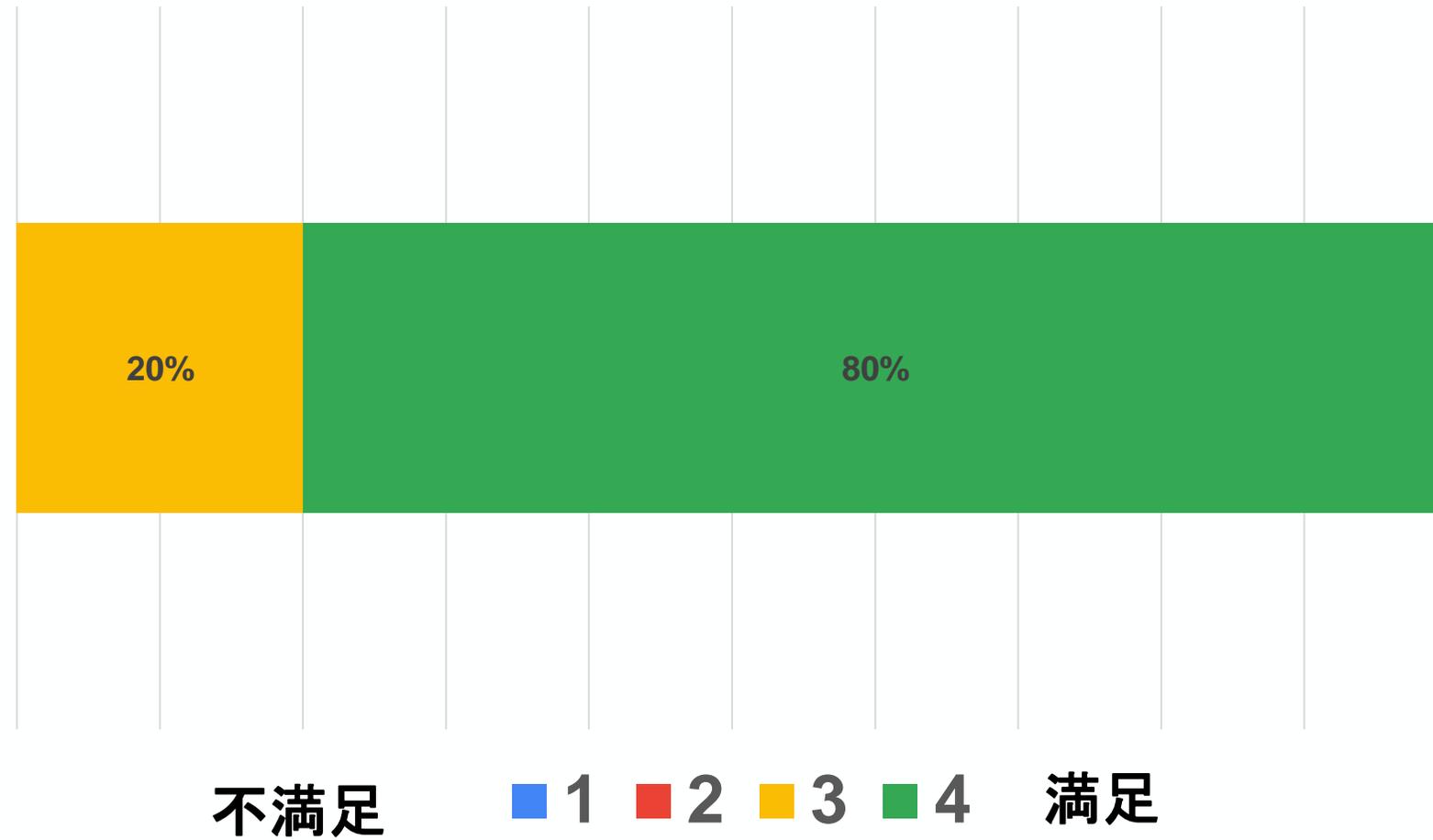
## 2.回答者の業種・所属



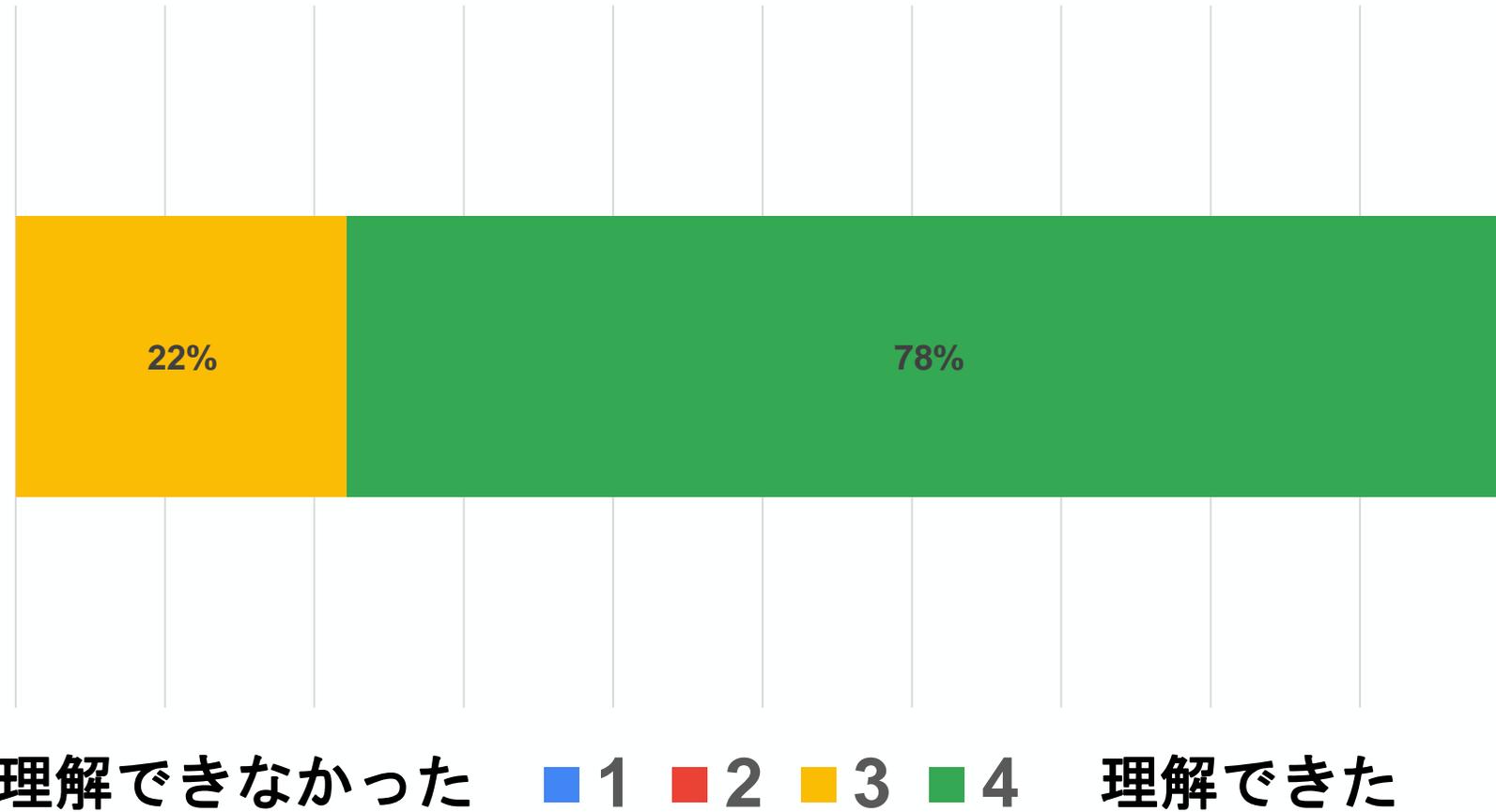
### 3.回答者の職位・学年



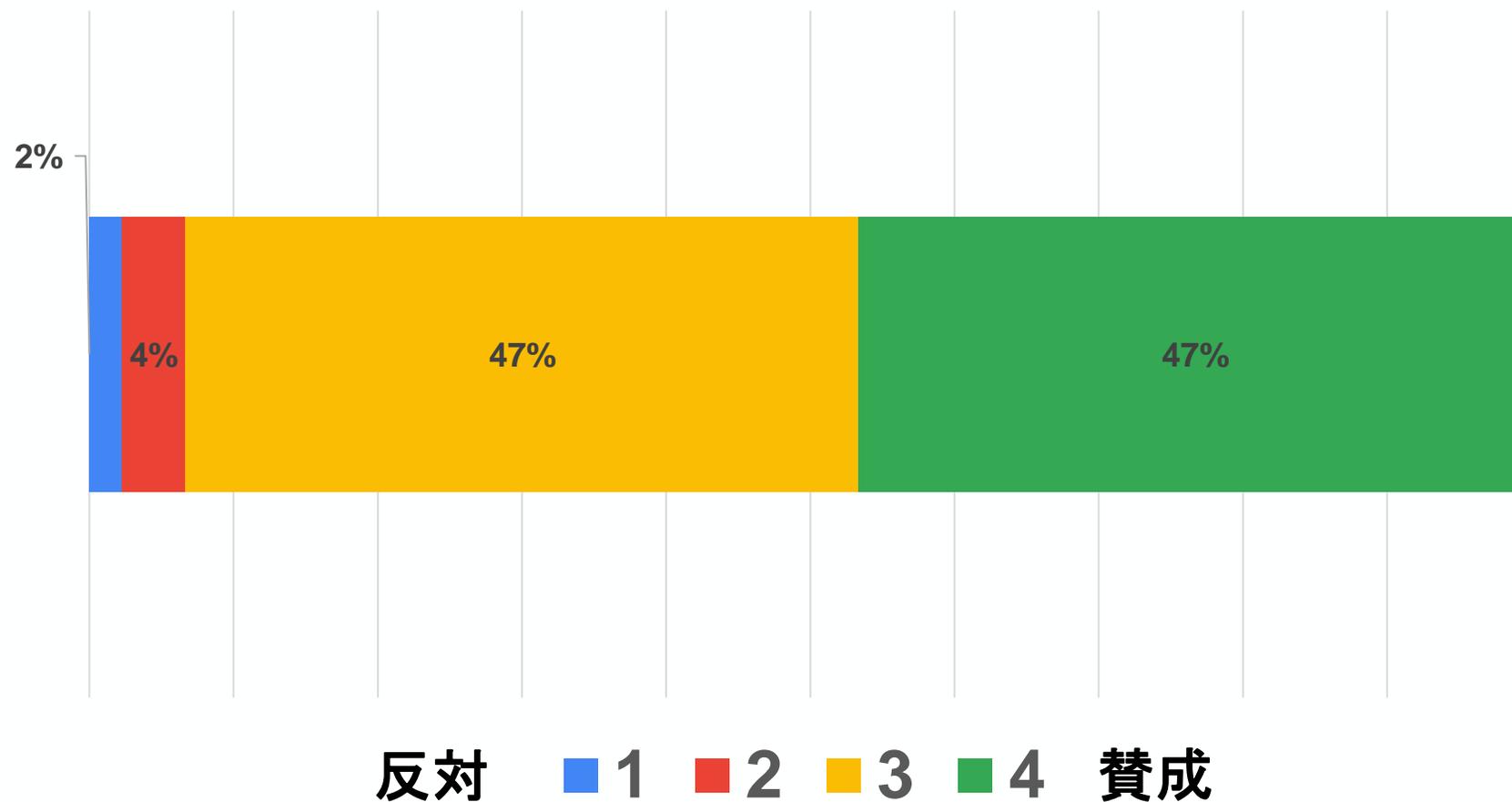
## 4.本シンポジウムの全体的評価



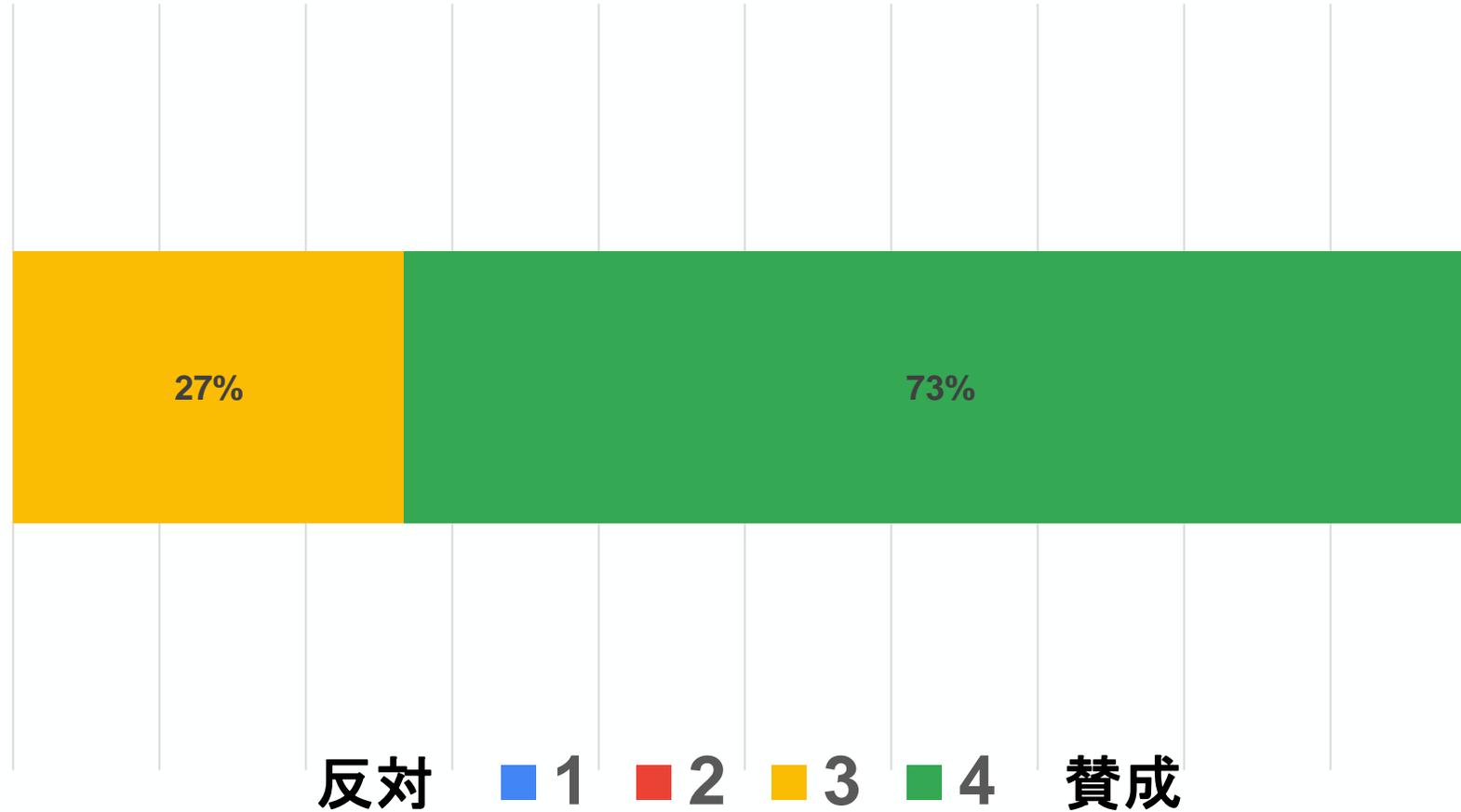
## 5. CBTの利点・欠点について理解できましたか？



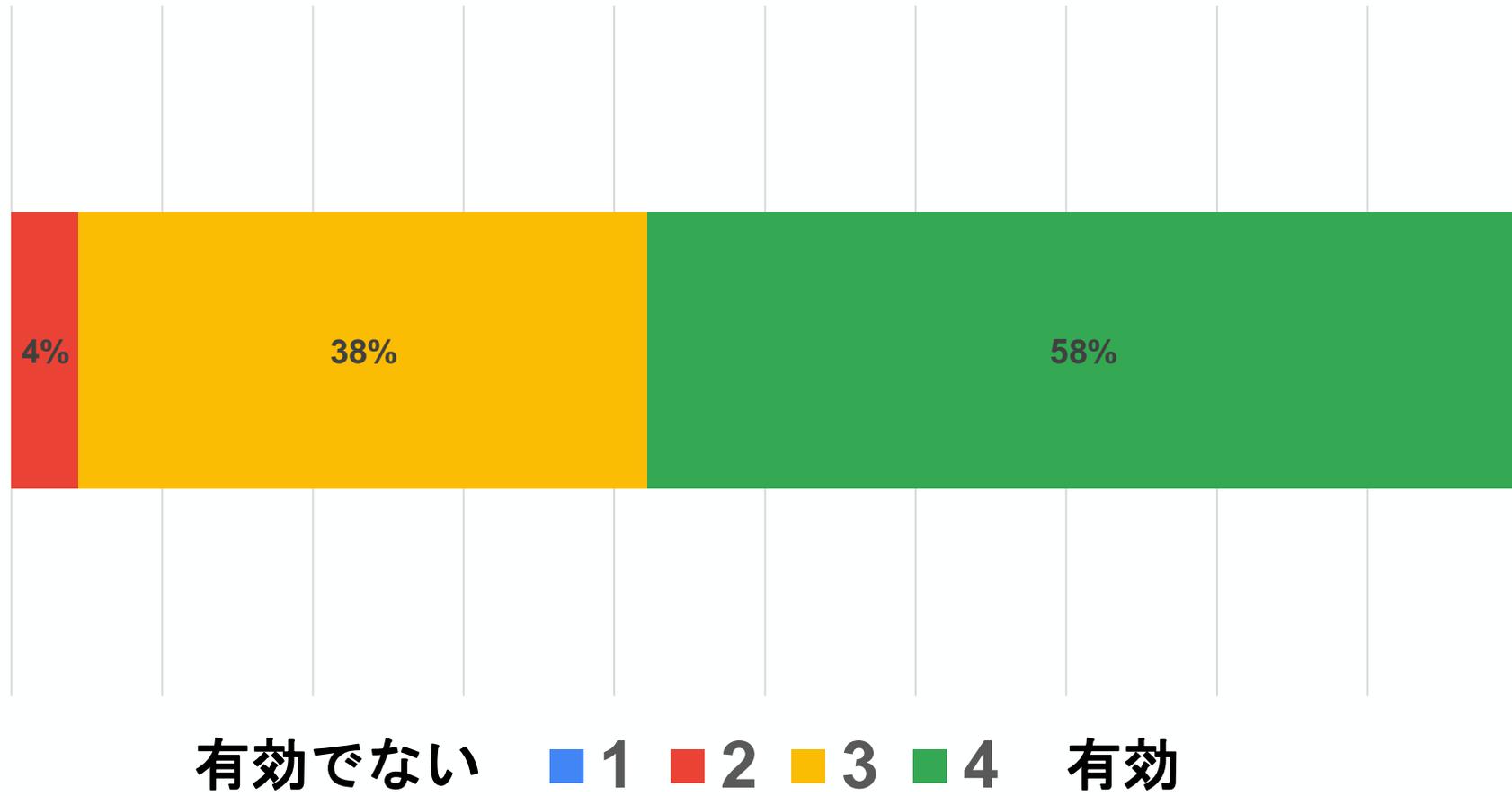
## 6. 一般的に、CBTを入試に導入することに賛成しますか？



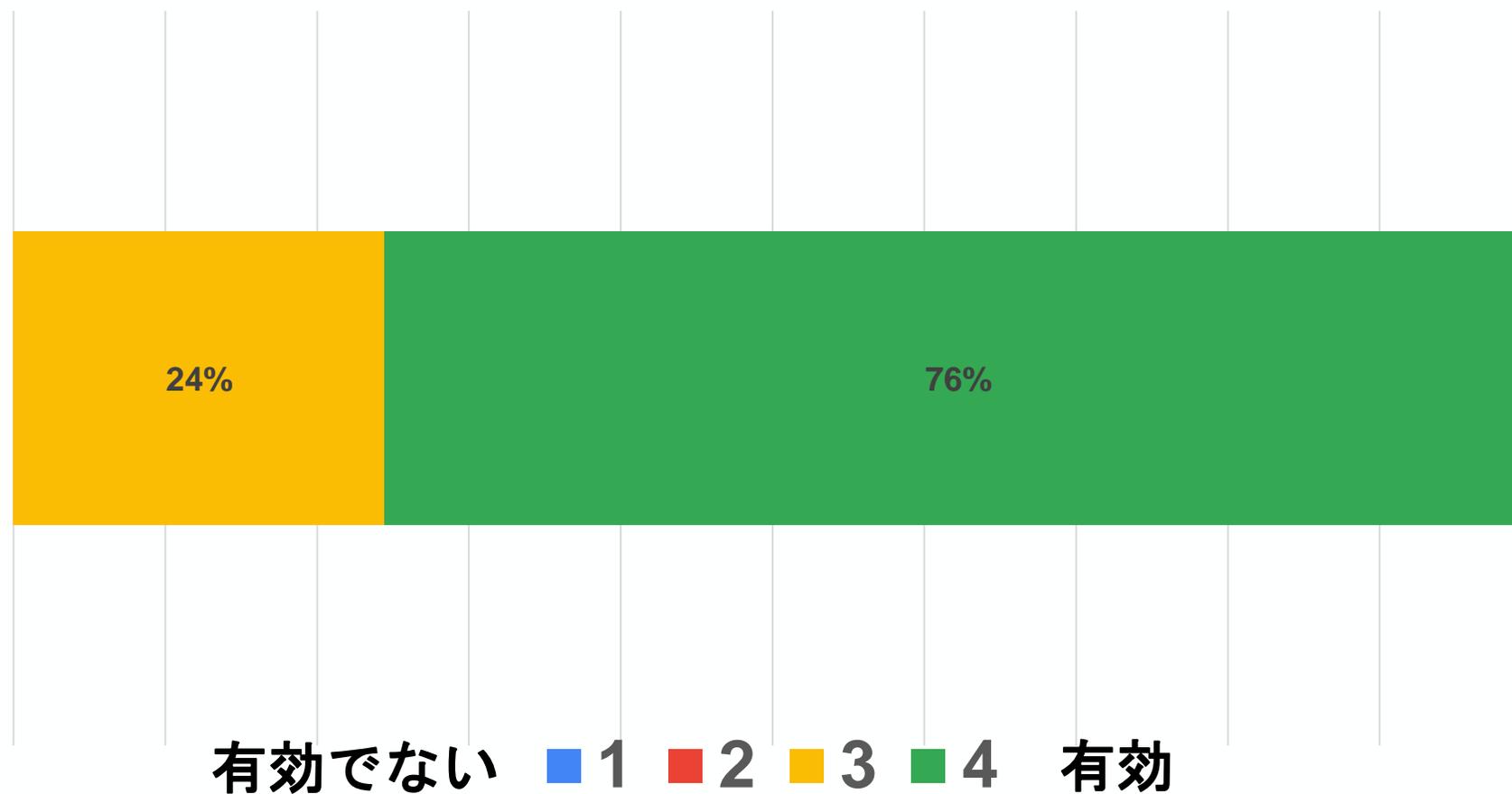
# 7. 電気通信大学のCBTを入試に賛成しますか？



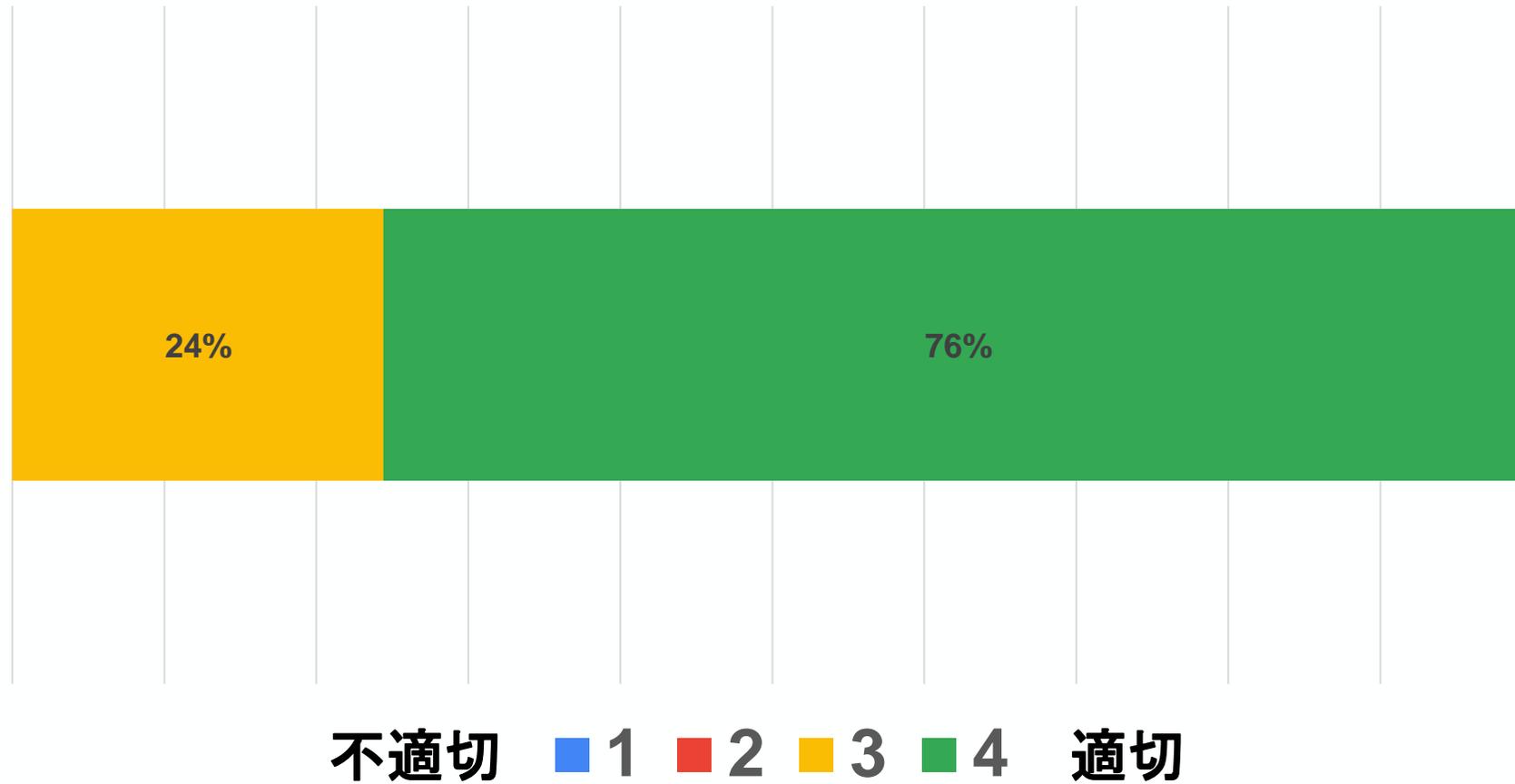
# 8. 一般的に、総合型選抜・学校推薦型選抜でのCBT利用は有効と考えますか？



## 9. 電気通信大学の総合型選抜・学校推薦型選抜でのCBT利用は有効と考えますか？



# 10.電気通信大学のCBT入試は適切に行われたと考えますか？



## 12. IRTを用いたCBTの入試への導入についてどう考えますか？（1）

- 専門家の育成が必要
- IRTを用いるということは継続が前提ですので、持続可能な環境・人財の担保が課題だろうと思います
- 受験生と大学のマッチングに寄与するものだと思うので、入試に関わる全ての人の労力を減らすためにも進めるべきだと考える
- ステークホルダーの納得感が重要だと考えます
- 質の高い試験ができると思いました
- PBTとは違ったアプローチで公平性を担保し、また感覚で作問していたところが精度を上げていけるので導入は必須だと思う。一方でアイテムバンクの構築はハードルが高いと思われる
- 複数回受験可能にするなら賛成
- 考え方は非常に合理的で賛成。実現には、受験生及び保護者への理解促進が重要
- IRT = 自宅だとすれば無理があると思う。技術論としては進めるべきだと思います。

## 12. IRTを用いたCBTの入試への導入についてどう考えますか？ (2)

- 基礎学力の判定に使える
- 理想的な運用だと思いますが、問題バンクに問題を蓄積する労力やノウハウを身につけるのは、かなり大変なことなのだろうと感じました
- 「予測ができる」「予測の効率化」というところが非常に有効だと感じた。予測、把握できるのは、入学前や入学後のリメディアル教育にもいい意味で多大な影響を与えられると思われる
- 容易ではないと思いますが、早晚求められることだと思います
- 将来的に、通年型の入試を実施する場合は、有効になると考えます。時期を限定した試験では、他の工夫も可能かと考える。
- テストの妥当性が高いことが前提として、IRTを利用して能力の測定精度を高めたCBT入試は、CBTもIRTもどちらもメリットを活用したものになっていると思うが、IRTを利用しないCBT入試にもメリットはあると思う。
- 出題が楽になることは考えられるが、高等学校の学習指導要領の変化などで外れる問題や問題数が増えるにしたがってそのチェックが難しくなるのではないか。特に、年数がたつにつれその作業に時間を要するようになると思われる。

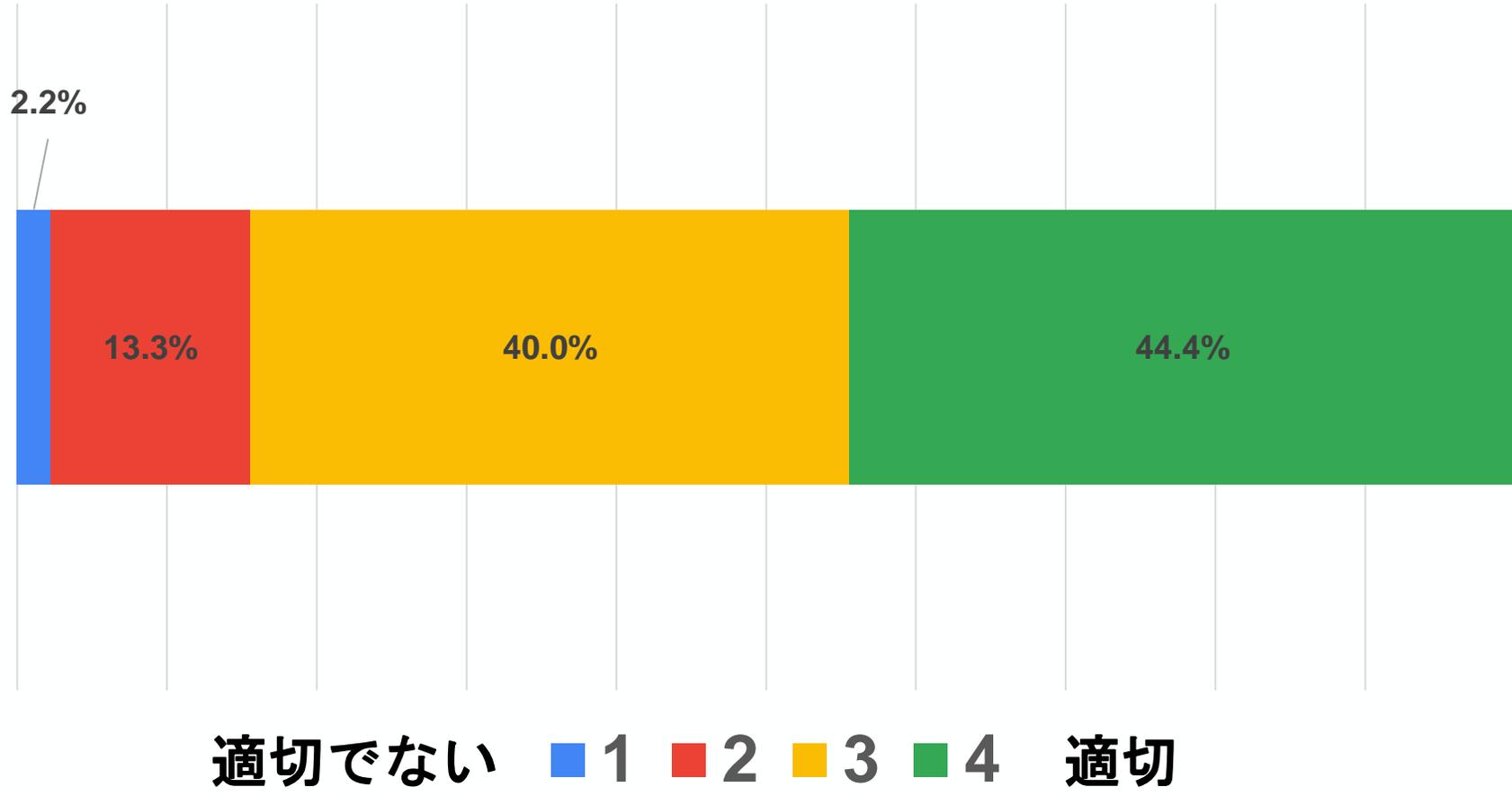
## 12. IRTを用いたCBTの入試への導入についてどう考えますか？ (3)

- すべてのテストではなく、図りたい学力と整合性のとれるものについては課題がクリアできるのであれば導入を進めていってもよい
- 現状の大学入試システムにそのまま取り入れるのは社会から受け入れられるのは一朝一夕には難しいと思う
- 細分化されすぎると人間に判断できない内容になってしまうことに対する不安があります。コンピュータが出した結論について議論できない状況が不安
- IRT以外のことも含めて、わが国の入試文化（特に入試のあり方や公平性についての社会の意識）を変えていく粘り強い努力が必要
- 利点を活かしつつ、準備期間を設けた段階的導入が必要と考えます。
- 今まで測定できなかったものができるようになることを期待
- 受験者の能力がきちんと測定できるので良いと思いますが、受験結果のデータのある程度まで増やしていかないと正しさが担保されないようにも思う
- 選択科目の平均点の調整が不要なため賛成

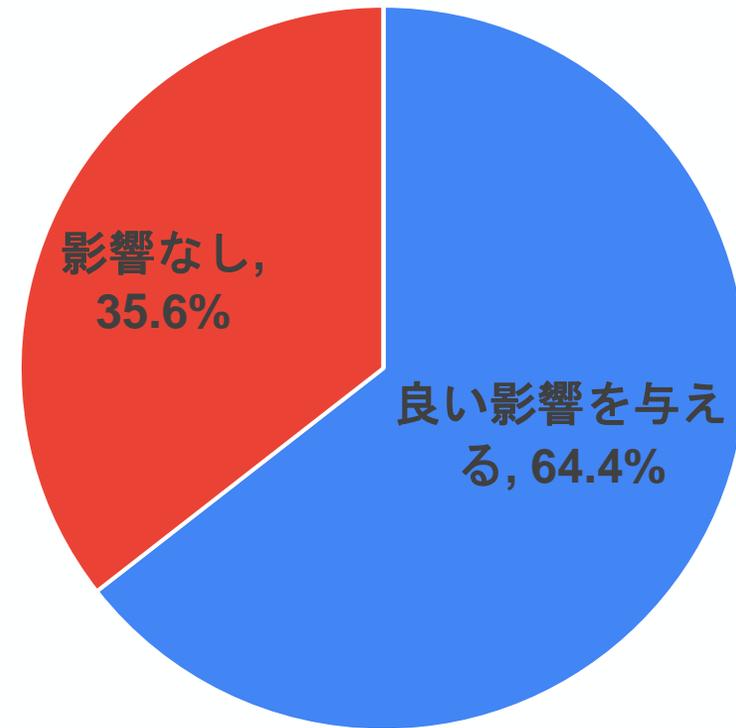
## 13. 過去問題が公開されないCBT入試についてどう考えますか？

- 生徒の本質的な能力を測る新しい入試として非常に有効だと考えます。また、高校教育と連携しやすい形にすることで、より実用的になると思います。
- 過去問題が公開されない入試の形態については、すでに自治体単位で行われているいくつかの地域での学力調査で「問題非公開」が実践されており、現場の先生にとっては「非公開」にすること自体は受け入れられると考えます。
- 基礎学力を測定する事に利用を限れば、過去問が公開されなくても良いと思います。資格試験としての利用には賛成です。
- 受験対策を立てにくい事が難点ですが、公開してしまえば、問題の使いまわしができないので仕方のないところだと思います。
- 我が国は試験問題に対する関心が異常なまでに高く、容易ではないでしょう。試験全般のステークスが高すぎるのが要因と思います。
- 新しい試験様式において過去問や参考問題の提供を希望するが、公開が難しいことは理解しています。新しい形式に対する理解が社会全体で進む必要があると感じます。

# 14. CBT入試実施時期（総合型選抜 9 月、学校推薦型選抜 1 1 月）について適切と思いますか？

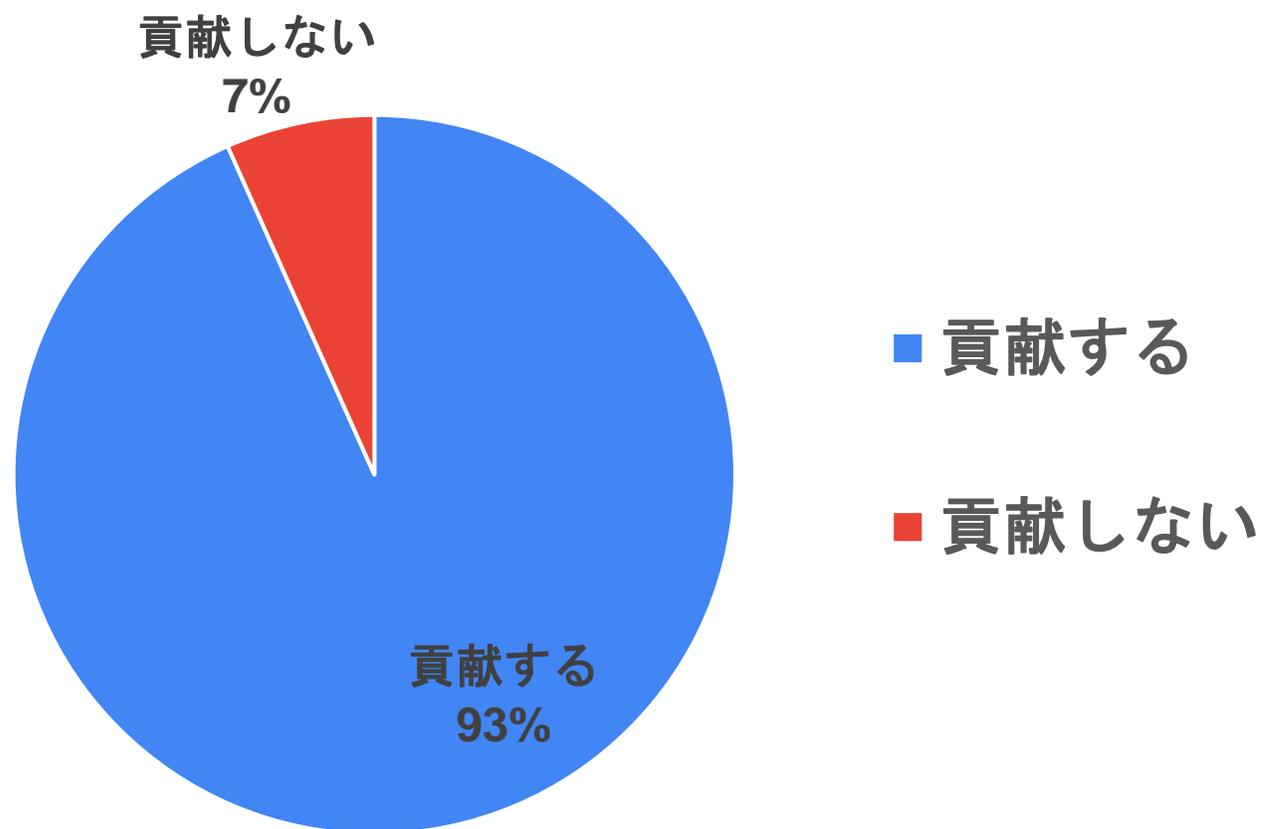


# 15. 電気通信大学のCBT入試は、高校での授業、高校生の学習のやり方に影響を与えられますか？

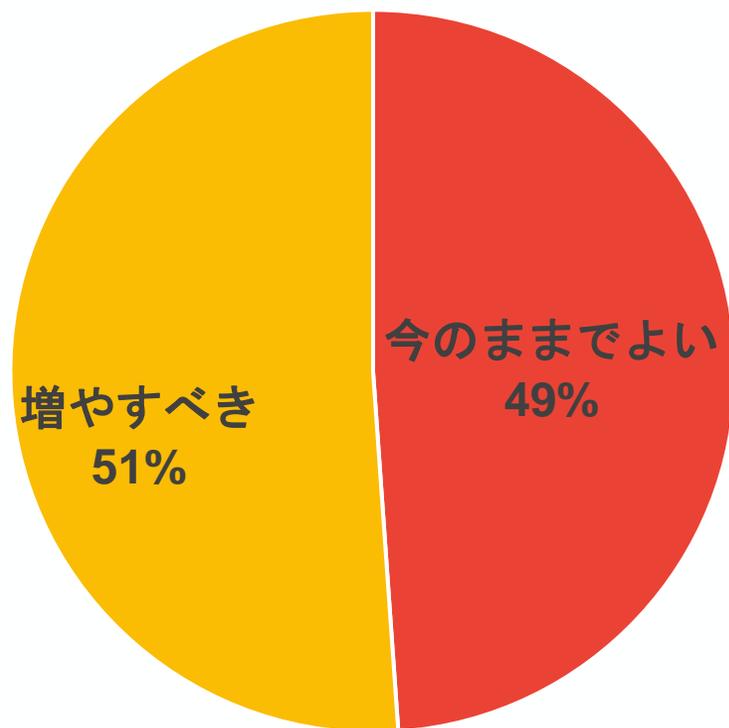


- 良い影響を与える
- 影響なし
- 悪く与える

## 16. 電気通信大学のCBT入試は、社会に貢献できそうでしょうか？



# 17. 電気通信大学のCBT入試での合格者数をより増やすべきでしょうか？



- 減らすべき
- 今のままでよい
- 増やすべき

## 18.電気通信大学のCBT入試の高校や受検生への負担についてどう考えますか？

- いまの受験生はCBTやタブレットの取り扱いへの壁はほとんどないと思われる。慣れれば問題ないと思う。
- なくなる負担もあれば増える負担もあるが、特段の負担増とは思われない。思っているほどの負荷がないように思われます。
- このような入試を得意としている生徒にとっては有利だし、歓迎されるものと思われれます。その意味で、このシステムを利用した入試は、今の定員枠でよいのではないのでしょうか。
- 従来型とCBTの両方に備える必要があり、負担が増える懸念があります。社会にCBTが根付くまでは負担が増えると思う。
- 過去問が無く、対策は立てにくいという面では負担があるかもしれませんが、基礎学力を身に付けることが重要なので、普段の授業をしっかりとやる事が重要である事への認識が高まれば大きな負担であるとは思いません。
- 試験実施時期が早くなければ負担はないように思いますが、受験者等との継続的なコミュニケーションを通じて、当事者の負担をよく理解していく必要

## 19.あなたが大学職員の場合、電気通信大学のアイテムバンクを含めてCBTを利用できることについてどう考えますか？

- 長期的な負荷軽減、学生へのパーソナライズした指導実現ができるなどのメリットが大きい。
- アドミッションポリシーとの整合性があれば問題ない。また基礎学力（期末試験レベル）であれば、どの大学もさほど変わらない。
- 品質の高い問題を共通で利用できることが叶えば、そのぶん、教員は、授業に専念できます。
- 導入にはICT環境とサポートの整備に時間がかかりそうです。
- 特に、理工系中心の場合は、時代の進化（技術面・法律面・モラル面他）に、どうついていく（と言うよりは、時代の先を行く）か、どの様な学生を育成するかを考えると、アイテムバンクの更新が気になります。
- 入試の問題作成は大変で、入試の出題では、毎年のように訂正が入り、監督としては、黒板に訂正を書く日々です
- 1つの大学、1つの入試担当課だけで実施するのは難しいと思います。

## 20.CBT入試を普及させるためには何が必要だと思いますか。

- 社会の理解を広げるために、多方面で利用されることが必要だと思います。大学入試ということに関して言えば、ぜひ予備校の模擬試験でIRT型のCBTを利用した模擬試験を運営していただくと、CBTを経験する受験生が増えて、理解が促進されると思います。
- 入試の多様性への社会的な理解が増すことが必要と思います。
- CBT入試の実績を積む事と、データを増やしていく事だと思います。
- ICT環境とサポートの整備に時間がかかりそうです。
- 大学教職員のCBT搭載作業への抵抗をなくすことと考えます。
- 日本の入試への固定概念の変化（公平性、公正性）。試験文化の変容。

## 21.電気通信大学のCBT入試で懸念があれば書いて下さい。

- 若い世代（受験生）はすぐに対応できると思う。
- ICT化で、時代を引っ張って行ってください。
- 日本における（大学）入試の在り方。ハイステイクス一発勝負は変わるべきでは。
- 今後、今回の入試の取り組みを拡大していくなかで「大規模な試験運営上のトラブル」があった場合に、どのような対応をとるのが気になります。
- プログラミング試験問題中に起きるフリーズの可能性が（どこの大学であっても）排除できないようなので、対応に不満を持つ受験生が出ないことを祈ります。
- あえて言うなら開示請求に耐えうるのか？ C B T以外の試験がすべて同点の場合 C B Tの内容で合否を決めた場合とか。

## 22.自由に意見を書いてください。(1)

- CBT入試によって、たまたま得点できた、出来なかったの入試にならず、普段の授業でしっかり学力を付けたい生徒が評価される事になるのであれば良いと思います。また、問題のデータベースができれば、大学の先生方の負担も減って行くので、よりご自分の研究に力を入れられ、入学した学生の教育にも良い影響が与えられるかと思います。
- 昨今の社会環境においては、遠隔モデルでのCBT入試実施についての知見集約が必要だろうと思いました。今後も期待しております。
- CBT入試の導入が、ハンディキャップのある方の受験をサポートできる可能性があるというお話が心に残りました。
- CBTをブロックチェーンかして、ポートフォリオや、指導要録などに活用するなど面白そうと感じました。問題を解くときに、問題の理解、解答へのルート選定、解答のアウトプットを能力値に入れられると面白いと感じました。

## 22.自由に意見を書いてください。(2)

- そもそも地方私大では入試が機能していない場合が多く、学力試験をしたところで結果に基づいて受験生を落とすこともできない。従ってCBTも単に受験機会を拡大する、という目的以外導入する理由がないのだが、そのような目的だけでは導入コストが大きすぎる印象を持った。
- 個人的にはCBT入試が拡大していくことを期待している者ですが、想像していたよりも大きな困難が多いことが感じられたため、自分の見通しの甘さも痛感いたしました。
- 文字や文章が書けない人が増えている中で、記述式が必要という意見にも同意。
- このアンケートについて「どちらとも言えない」という選択肢がなく、非常に回答しづらいと思いました。また、CBT試験のモニター参加者からの好評であったという報告がありましたが、「この商品を買った人の99%が満足したと答えています」という広告と同様と思いました。ランダムサンプリングで参加者を集めて調査すべきではないかと感じました。